

| 授業科目名・形態 | 看護実践総合演習 | 演習 | 必修・選択の別 | 必修 | |
|----------|--|-----|---------|-----|---|
| 担当者氏名 | 佐藤純子・水木暢子・黒澤繭子・ 今野修・小畑千春・千葉孝子・ 高山新吾・伊藤洋介 | 開講期 | 4年後期 | 単位数 | 1 |

【授業の主題】

これまでの看護技術習得状況を評価し、対象の治療環境に適した看護技術を提供できるよう、確かな看護技術を実践する。

【到達目標】

看護技術演習や臨地実習で学んだことを踏まえ、安全で安楽な看護技術を習得する。
臨床での看護技術がイメージできる。

【授業計画・内容】

佐藤純子、水木暢子、黒澤繭子、今野修、小畑千春、千葉孝子、高山新吾、伊藤洋介がそれぞれの項目を担当し、演習を実施する。

- ① 体位変換と寝衣交換
- ② 無菌操作と創傷処置
- ③ 皮下注射・筋肉注射・皮内注射の方法
- ④ 採血法
- ⑤ 静脈注射と点滴注射
- ⑥ 呼吸・循環の異常への対処方法（酸素吸入と吸引）
- ⑦ 夜間の緊急時の対処方法
- ⑧ 技術チェックとまとめ、課題レポート作成
小グループとなり、それぞれの項目の演習を学生が主体となって実施する。

【授業実施方法】

集中演習

【授業準備】

1年次から4年次までの看護技術を復習してください。また、侵襲度の高い看護技術をモデルを用いて実施してもらいますので、知識面の復習をしてください。

【主な関連する科目】

基礎看護学・成人看護学の講義・演習・実習科目全般、統合実習

【教科書等】

これまで看護学全般の授業でのテキストおよび資料を十分に活用してください。

【参考図書】

ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）など

【成績評価方法】

演習状況（60%）、レポート等（40%）の総合評価

【学生へのメッセージ】

この演習では、学生自らが自己の課題を明確にし、これまで学んできた看護技術を総合的な視点で捉えなおします。看護職者として業務を遂行していくための看護技術を習得するための機会です。これまでの看護技術を復習し、グループごとに協力し合いながら演習を進めてください。